

(学校番号009) 令和4年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【南浦和小学校】

4月15日		
目標・策		
知識・技能	R3年度全国学力・学習状況調査及びR元年度市学習状況調査の自校結果より国語・算数の「知識・技能」において1pt向上させる。 (R4年度全国学力・学習状況調査の国語・算数・理科の「知識・技能」において全国平均を上回る。)	⇒
思考・判断・表現	R3年度全国学力・学習状況調査及びR元年度市学習状況調査の自校結果より国語・算数の「思考・判断・表現」において2pt向上させる。 (R4年度全国学力・学習状況調査の国語・算数・理科の「思考・判断・表現」において全国平均を上回る。)	⇒
主体的に学習に取り組む態度	R4年度全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を95%以上にする。	⇒
	金曜朝の時間に基礎学力パワーアップタイムを実施し、「ドリルパーク」「スタディ・サプリ」等を活用した、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組ませる。その際、月初めの金曜朝に児童自ら学習履歴を確認させ、個別に学習計画を立てる時間を設定する。	
	児童が課題に対して作品やレポート等に取り組む際、評価の観点を示した上で、ふり返りシート等を活用して、定期的に進捗状況を確認しながら、児童の思考したプロセスを評価していく。また、学校課題研究(体育・人権教育)を通して、協働的な学習の場面における伝え合いの基本的なスキルの指導を行うことで、表現力の向上を行う。	
	全ての授業において、児童とともに必要感のある課題を設定し、解決の見通しをもたせ、自力解決を行う場面の設定を行う。さらに、授業の終末には必ず自ら振り返りを行う時間を設定する。	

9月2日		
中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
知識・技能	R3年度全国学力・学習状況調査の自校結果より国語の「知識・技能」は2.1pt向上したが、算数の「知識・技能」は2.3pt下落した。しかしながら、算数の全国平均が大きく下落したため、大きな差はないと考えられる。	⇒
思考・判断・表現	R3年度全国学力・学習状況調査の自校結果より国語の「思考・判断・表現」は7.1pt向上したが、算数の「思考・判断・表現」は3.1pt下落した。しかしながら、算数の全国平均が大きく下落したため、大きな差はないと考えられる。	⇒
主体的に学習に取り組む態度	R4年度全国学力・学習状況調査の「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が93.5%となり、目標を概ね達成できていると考えられる。	⇒
	4月当初の策を継続していく。	
	4月当初の策を継続していく。	
	4月当初の策を継続していく。	

8月23日	
全国学力・学習状況調査結果	国語：+10 算数：+11 理科：+11
全国学力・学習状況調査結果・分析	
<p>・国語の平均正答率は全国と比較して、+10である。内容や領域ごとの平均正答率では、全てにおいて全国を上回っているが、「話すこと・聞くこと」は+14.8で最も高く、「言語文化に関する事項」は+4.5と最も低い。しかしながら、平均正答率が最も低いのは昨年度に続き「書くこと」で61.1%となっており、本校の課題と考える。そのため、一人1台端末で書く活動が減る中、毎時間の「ふり返り」を充実させたり、タブレットを比較・推敲に活用し、書く活動を充実させたりすることで、「書く力」に必要な思考力・判断力・表現力の向上を図る。</p> <p>・算数の平均正答率は全国と比較して、+10.8である。内容や領域ごとの平均正答率では、全てにおいて全国を上回っているが、「思考・判断・表現」は+13.9と最も高く、「知識・技能」は+8.8と最も低い。しかしながら、平均正答率が最も低いのは「変化と関係」で63.9%となっており、本校の課題と考える。そのため、自力解決の場面において数直線等を使って問題を図式化する活動を増やしたり、互いの解答を発表し合って「対話的な学び」を深めたりすることで、「変化と関係」のみならず、様々な問題に対して必要な思考力・判断力・表現力の向上を図る。</p> <p>・理科の平均正答率は全国と比較して、+10.7である。内容や領域ごとの平均正答率では、全てにおいて全国を上回っているが、「『粒子』を柱とする領域」は+13.1と最も高く、「知識・技能」は+7.3と最も低い。しかしながら、平均正答率が最も低いのは「エネルギー」を柱とする領域で63.9%となっており、本校の課題と考える。そのため、「エネルギー」に関する事象を中心に、様々な事象に対して予想を立て確かめる計画を考えて、結果を考察する活動を充実させたり、グループで考察するなどの話し合いを取り入れ「対話的な学び」を充実させたりすることで、「『エネルギー』を柱とする領域」への興味・関心を高め、課題解決力の向上を図る。</p>	

2月〇〇日			
さいたま市学習状況調査結果・分析			
小3		小4	
小5		小6	

2月〇〇日	
成果指標に対する達成状況	評価(※)
知識・技能	
思考・判断・表現	
主体的に学習に取り組む態度	

3月〇〇日	
次年度への課題と改善策	
知識・技能	
思考・判断・表現	
主体的に学習に取り組む態度	

※評価  
 A 8割以上(達成)      C 4割以上(あと一歩)  
 B 6割以上(概ね達成)      D 4割未満(不十分)